

## 平成30年度 豊能歯科保健療懇話会 議事概要

日時：平成30年9月3日（月）午後2時～4時

場所：豊中市保健所 2階講堂

### ■報告

「第7次大阪府医療計画」及び「第2次大阪府歯科口腔保健計画」について

（報告資料に基づき事務局より報告）

### ■議題

(1) 「後期高齢者歯科健診事業」について

（議題資料に基づき行政委員と事務局より説明）

(2) 「口腔内環境と全身性疾患との関係」について

（議題資料に基づき行政委員と事務局より説明）

(3) 「在宅歯科ケアステーション」について

（地区医師会より説明）

(4) その他

○「大阪府市町村歯科口腔保健実態調査」豊能圏域まとめ

（議題資料に基づき事務局より説明）

### ■議題(1)「後期高齢者歯科健診事業」について

#### ○事業の現状報告

- ・本事業の開始から4か月間で健診票の提出枚数が被保険者の10%弱であり、受診率は当初の見込みよりも高い。
- ・受診率が高い理由としては、口腔機能の健診項目が多いことから受療中でも健診を受けられるシステムと4月に被保険者全員に受診案内を送付したことが考えられる。

#### ○各地区歯科医師会の現状や取組み

- ・成人歯科健診に比べ高い割合で健診が行われていると感じている。
- ・昨年度に後期高齢者歯科健診に向けて健診方法やその後の指導方法の研修を実施。成人歯科健診でも年齢が上がるほど受診率が高いため、後期高齢者歯科健診の受診率は高くなると予測していた。
- ・案内が届いたことや口腔機能健診があることから受診された方が多いようだ。
- ・健診後に口の体操の指導をしている。
- ・大阪府歯科医師会で作成した通所リハビリ施設などを対象としたガイドブックを指導に活用できる。
- ・この健診のデータが蓄積されれば口腔機能と健康と残存歯等の関係が見えてくる可能性がある。

#### ○各市町の取組み

- ・歯科医院で保健指導に活用できるようハンドブックを作成、配布している。
- ・市民向けに、音楽を使った口の健康教室を開催している。
- ・歯や口の健康と全身の健康の関係についての啓発や、生活習慣病と口腔の関係についての講義を地域で行っている。
- ・成人歯科健診で実施していた歯面清掃を、市独自の取組みとして後期高齢者歯科健診にも取り入れている。

#### ○後期高齢者歯科健診の受診率が高い要因及び成人歯科健診受診率について

- ・成人歯科健診の受診率の高い市は、受診期間が限定的であることが要因の1つかも知れない。また、

治療中の患者に健診案内の声掛けをすることが効果があるのではないかと。

- ・後期高齢者歯科健診は、治療中でも健診を受けることができるということのアナウンスが効果があったのではないかと。
- ・健診だけではなく指導も行うことで良かったと感じてもらい、受診者が広がっていくことに意義があると思っている。
- ・指導や歯垢除去を行っている。健診を一度受けた方が次の年も、というケースが多い。

## ■議題（２）「口腔内環境と全身性疾患との関係」に関する住民啓発について

- ・ハンドブックに歯周病と全身との関係やたばこの関係を掲載したり、公式ツイッターを利用した情報発信を行ったりしている。
- ・妊産婦や乳幼児の健診時に妊娠期、胎児への影響について啓発を実施している。
- ・健康教室での啓発や、歯科衛生士が地域に出向いて口の健康の話をしている。
- ・健康講座で歯周病と糖尿病との関係をテーマとし、特定健診の糖尿病の有所見者に案内を送った。
- ・歯科講演会の参加者が少なく、講演会以外の住民が集まる機会を活用した啓発活動を行いたい。
- ・健診結果に問題のある方に対して、歯科の再受診や内科受診の追跡調査を行う予定である。
- ・病院から紹介してもらった糖尿病患者に対して健診・指導を行う事業を行った。
- ・口腔ケア講習会で介護食をテーマとし、試食も用意したところ、盛況であった。
- ・薬局では糖尿病の方に歯科受診の助言などはしやすいと思う。歯科医師会と薬剤師会で話をし、薬局との連携を進めていけば受診は増えるのではないかと。
- ・糖尿病と歯科の関係は医師は知っているはずなので歯科受診を勧めているとは思いますが、今後も周知など協力する。

## ■議題（３）「在宅歯科ケアステーション」について

- ・基金事業がなくなり、歯科医師会独自で続けている。問合せ件数は減少しており、裾野を広げる努力をしているところである。保健所と相談して、在宅介護者との連携に必要な情報を提供するための勉強会を行う予定である。また、ICTを活用した情報共有ツールを利用して医療・介護関係者に対してステーション活用の発信ができればと考えている。
- ・新しく始まる医科歯科連携推進事業を活用して、病院からの周術期や口腔機能管理についてかかりつけ歯科医のコーディネートを行うことで新たな活路を見出していければと考えている。
- ・従前の役割のまま、件数も減らず機能している。すぐに対応できる体制を整えており、介護関係者や患者家族、医師会からの紹介に対応している。
- ・ステーションの周知が難しく、医師会主催の他職種連携研修会などに参加することで歯科口腔を他の職種の方に知ってもらうことを継続して行いたいと考えている。
- ・在宅歯科診療の必要な方や他職種からの相談窓口のイメージになりがちであるが、他職種連携など、地域包括ケアシステムの中での医療介護、医科歯科連携の窓口という意義付けもあり、今後はそういった部分が重要になる。
- ・今後、災害協定や二次医療圏を超えた協定などを考えていく必要が生じるのではないかと考える。マンパワーが不足している市町には近隣による援助に加え、大阪府の後押しをいただければと思う。

## ■議題（４）その他

### ○「大阪府市町村歯科口腔保健実態調査」豊能圏域まとめ

- ・成人歯科健診の受診率は自己負担額の有無が影響しているのだろうかと思っている。
- ・自己負担額が無料であることが受診者数の多さにつながっている可能性はある。歯科健診の重要性について、歯科の疾患が全身の疾患につながるということを含め、行政側が非常に理解している結果と思っている。
- ・歯科は命にかかわることが少ないために自己負担額があれば受診に二の足を踏む場合が多いのではないか。